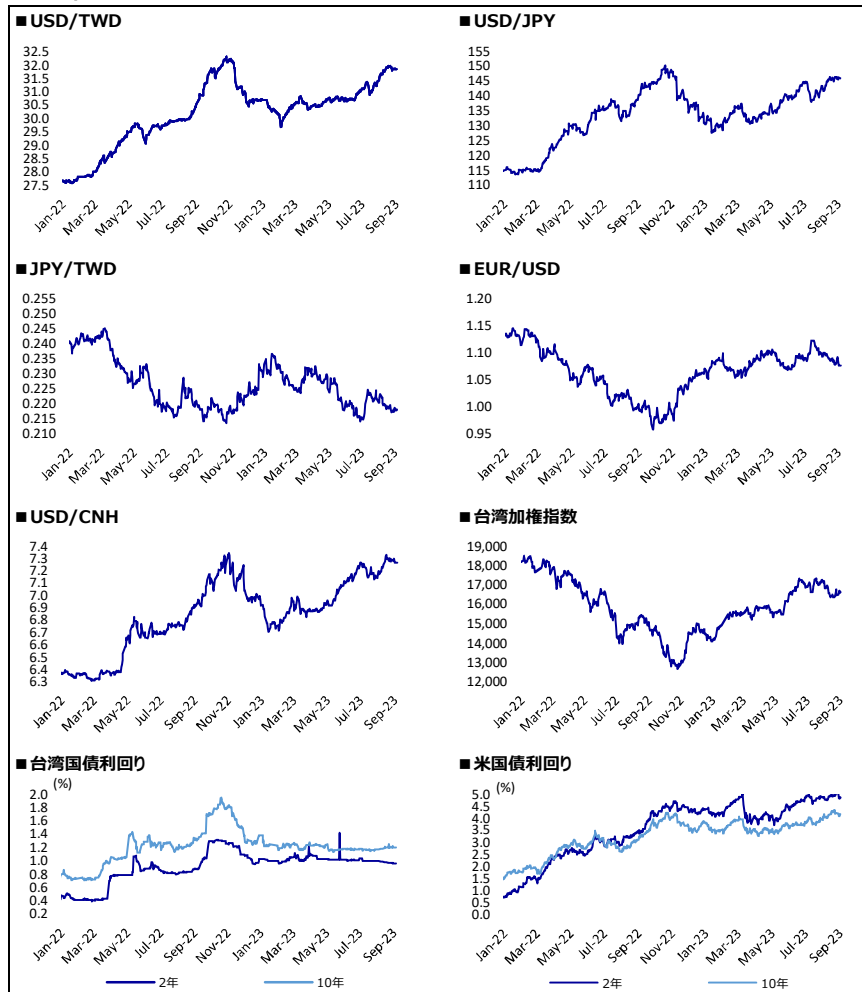


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルはレンジで推移。週初8/28は31.821でオープン後、台湾株が堅調に推移し、台湾ドルが買われると31.800まで下落。しかし、台湾株の上昇は小幅にとどまり、外国人投資家の資金流出や人民元安を受け、次第に台湾ドル売りが優勢となると31.9手前まで上昇した。8/29は売り買い交錯し、31.8台後半のレンジでの推移したが、8/30は前日の経済指標を受けた米金利の低下の影響で台湾株も上昇すると、ドル台湾ドルは31.82付近まで下落。しかし、台湾株の上値が伸び悩むと31.8台半ばまで戻された。8/31は台湾株が軟調に推移すると一時31.913まで上昇。一巡後は実需の売り買いが交錯する中、次第に31.8台半ばまで戻した。9/1は外国人投資家の台湾株売りから31.8台後半まで上昇したが、上値では輸出企業のドル売りも入り、最終的には先週比ほぼ変わらずの31.861で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は57.8億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は年初来高値を更新するもその後は下落。週初8/28は146.50でオープン後、材料難の中、レンジで推移。8/29も特段材料のない中、レンジで推移していたが、米金利の上昇を受けて一時147.37まで上昇し、年初来高値を更新。しかし、軟調な米経済指標を受けて米景気減速懸念が台頭すると、米金利が急低下し、145円台後半まで反落した。8/30は前日低下した米金利が上昇すると146円台に戻したが、米8月ADP雇用統計や米Q2GDP改定値が予想を下回ると145円台半ばまで反落。一巡後は146円台前半に戻した。8/31は中国8月製造業PMIが50を下回り、中国景気への警戒感からリスク回避の円買いもあり、145円台後半まで下落。その後は米7月個人支出や新規失業保険申請件数が予想より良好であったことから、146円台前半に反発するも、米金利が下落すると、ドル円も145円台半ばまで下落。9/1は注目の米雇用統計が発表され、米8月非農業部門雇用者数が予想を上回ったものの、平均時給や失業率が前月より悪化したことを受け、144.44まで急落。売り一巡後は米金利が上昇する展開にドルが買い戻され、米8月ISM製造業景況指数が予想を上回ったことも材料に146.30まで上昇。引けにかけては米国では連休控え、値動きが乏しくなり、最終的に先週比0.1%ドル安円高の146.27で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.750-32.000
今週はレンジでの推移を見込む。先週末に米雇用統計も発表され、今週は材料難の中、動意に乏しい展開となるであろう。ただし、中国の景気動向には注意したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：144.50-147.00
今週は底堅く推移すると見込む。先週発表された米経済指標では労働市場の落ち着きを示す結果が示され、9月の利上げ期待が後退したものの、依然としてインフレへの警戒感が高く、リセッションリスクが高まったわけでもないため、FRBは引き続きタカ派な姿勢を維持するであろう。引き続き、日米の金融政策の差が意識される時合いが続くであろう。

今週の予定

9/4 (MON)	米国休場
9/5 (TUE)	米7月製造業新規受注
9/6 (WED)	台湾8月CPI、米7月貿易収支、米8月ISM非製造業景気指数、米ベージュブック
9/7 (THU)	
9/8 (FRI)	台湾8月貿易収支

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。